

昭和二十四年六月一日、著者特別授受承認雜誌第四五三號
大正五年四月六日第三種郵便物認可 昭和二十五年九月二十五日印刷 (毎月一回一日發行)

哲學研究

第三十四卷 第三冊

第三百九十六號

昭和二十五年十月一日發行

ヘーゲルの藝術史論……………植田壽藏

アリストテレスに於ける知性の構造(承前)……………安藤孝行

陳那教學の課題(完)……………武邑尙邦

戦後に於ける倫理學の諸傾向 (島 芳夫)

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行ふ
 - (一) 毎月一回研究會を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けず、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年五四〇圓、又は半年二七〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

有賀鐵太郎	白井二尙	上野照夫	重澤俊郎	下程勇吉	島芳夫	關原太郎	高田三郎	武内義範	田中美知太郎	長尾雅人	野田又夫	松尾義海	三村勉	矢田部達郎	山内得立	井島勉
-------	------	------	------	------	-----	------	------	------	--------	------	------	------	-----	-------	------	-----

京都哲學會公開講演會

時 十一月四日(土)午後一時

處 京都大學法經第四教室

宗教的決斷

京都大學
助教授

武内義範君

自然史と人間の存在

教育大學
教授

務臺理作君

講演會終了後、文學部會議室で懇談會を
開きます

京都大學文學部内

京都哲學會

日本哲學會秋期學術大會

時 十一月二・三日

處 京都大學文學部

共通主題「存在と論理」

十一月二日(木)

午前九時

愛知學藝
大學教授

大内 進君

廣應大學

松本正夫君

北海道大學

花田圭介君

金澤大學

安藤孝行君

名古屋大學

竹内良知君

十一月三日(金)

午前九時

東京大學
大學院(文)

竹下敬次君

濹澤研究所

吉澤傳三郎君

大阪大學

平下欣一君

九州大學

山本清幸君

午後一時

右終了後、松本正夫君の「アメリカ哲學の現狀」につ
いての報告があります、尙その後で、懇談會を開く豫
定です

日本哲學會

20

以上、我々は陳那教學が一つの獨立の教學として再検討されなければならぬことを大體明かにしてきたが、このやうな陳那教學の課題はいかに解決されるであらうかが次に述べられなければならないが、我々は稿を改めてこの問題を更に述べたいと思ふ。

(完)

- (7) ワシリエーフ「佛敎論」二九一頁(佛譯)。
- (8) 山口益「中觀佛敎論攷」三〇八頁。
- (9) Jhāna-sārasaṃuccaya-nibāṇhana, 北京版經藏部第十八函。
- (10) madhyamakavatara (Bibliotheca Buddhica IX, p. 407)

前 號 自 次

求道時代の佛陀……………	武内 義範
思辨論理の可能性に就いて(完)…	山本 清幸
アリン、トテレニスに於ける…	安藤 孝行
知性の構造(承前)	
社会學界の近況(白井二尙)	
西遊東洋學台談のことなど(長尾雅人)	

は古い實證主義の誤りが残されてゐることは警戒されてよい。がとも角我々が特に注意を求めたいことは古い道徳形而上學の自己批判の時が來たと云ふことである。倫理學の社會學への接近は今日避けることの出来ない一つの傾向になつて來た。西田哲學から唯物論への轉向もさう云う傾向の一波動と見れば簡単に説明がつく。轉向必ずしも悪くない。問題は學問に對する誠實の有無である。だが誠實だけでは學問は發達しない。學問の發達には進歩的意識が最も必要だ。近代哲學が合理的經驗的何れにせよ我々をとらえるのはさう云う近代人の進歩的精神の所産であることに基くであらう。然し現代人が近代哲學を懐疑も批判もなくそのまま受けつくと云ふ如きやり方は近代精神にも逆行すると云はねばならない。倫理學と社會學とを同一視することは出来ないが、色々な新しい科學の成果、新しい事實をよく注意して思索を進めると云ふことは望ましいことである。元來倫理學は人間的感情と人間價値の絶對性を基にしてゐる。そしてこのやうな價値はアブソリュートイズムと民族主義の影響下にあつた日本の哲學界では無視されてゐた。然しヒューマニズムの今日の有り方に關しては中々手厳しい批判が宗教と科學の両面から行はれてゐる。然したとえ宗教が新しいヒューマニズムを導き出し得るにしても宗教の性質上それには限界がある。そこに倫理學の領域が開かれる。然し又社會科學の側からヒューマニズムの有り方が色々論ぜられてゐる。これは結局近代倫理の自己批判の必要を證するものである。然し階級的利己主義から人類愛への辯證法的轉化の如きものを(柳田謙十郎氏)

我々は容易に信ずる氣になれない。だが我々は民衆のヒューマニズムを土臺にし、科學を媒介にして國家、階級、家族その他の社會の倫理の基礎理論たるべきものを考え出すことは非常に必要なことと思う。かう云う仕事は嘗て和辻博士が「倫理學」で試みられた外に殆ど手がつけられてゐないのである。

執筆者紹介

植田壽藏	京都大學文學部(美學・美術史)名譽教授 文學博士
安藤孝行	金澤大學法文學部(哲學)助教
武邑尙邦	龍谷大學文學部(佛敎學)助教
鳥芳夫	京都大學文學部(倫理學)敎授 文學博士

(5) 年報(英文)によつて、内外の關係諸機關及び諸學會との連絡

なほ最初に掲げた諸會合は今春以來の本會の活動の一部であるが、昨年度に於ては左記の如き會合が催された。

一、公開講演會(發會記念) 十一月廿六日(土) 文學部第八教室

「進歩と終末」 東大教授 有賀鐵太郎

「新しい世界の佛敎的構想」 花大教授 久松眞一

一、研究報告會 十二月廿日(月) 午後二時 清風莊

「宗教と社會」 東大講師 武藤一雄

一、公開講演會 一月廿八日(土) 午後一時半 文學部第八教室

「宗教の本質」 東大助教授 武内義範

又本會發足以前の昨春四月より前記諸大學研究者十五名協力の下に「世界文化創造と宗教」なる共同研究がなされつゝある。

(阿部)

日本學術會議會員候補者 推薦の件

日本學術會議の第二回會員選舉が十一月十日から十二月十日までの間に行はれますが、本會は委員會の議により全國區候補者として本會委員、京大文學部教授矢田部達郎君を適任と認めて推薦致しますから振つて御投票下さい。地方の有権者数は全國の二分の一を占めるのに、全國區の當選者数は僅かに定員の六分の一(現會員四名)に過ぎないといふことは、地方人でなくともその不均衡に驚かざるをえないでせう。そのため種々の不便が起ります。これは一つには地方から當選見込みのない候補者が亂立する結果です。矢田部君は京大文學部や近畿の諸大學からも公認されてゐるので、若し本會所屬有権者の一致した御後援があれば恐らく當選可能であらうと思はれます。哲學代表としてばかりでなく、地方代表といふ意味を含め、史學文學の御知友をも御勧誘の上同君に御投票下されば幸甚です。

昭和二十五年十月

京都哲學會委員一同

會員各位

會 告

- 一、本會へ入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費をお拂込下さい
- 「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」
- 一、前金切れの場合は帶封に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい
- 一、會員の轉居入退會等(編集事務以外的一切)の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい
- 一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等はすべて本會宛にお送り下さい

京都大學
文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

- 一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい
- 一、本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にてお送り下さい
- 一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

昭和二十五年 九月廿五日印刷
昭和二十五年 十月一日發行

編 集 人 京 都 大 學 文 學 部 内

右 代 表 者

三 村 勉

發 行 人 久 保 井 理 津 男

東 京 都 千 代 田 神 田 駿 河 區 四 〇

印 刷 人 鈴 鹿 幸 保

京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

印 刷 所 弘 文 堂 印 刷 部

京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

發 行 所 株 式 會 社 弘 文 堂

東 京 都 千 代 田 神 田 駿 河 區 四 〇

定 價		冊 數	定 價	郵 税
一	冊	四十五圓	金三	圓
六册(前金)		二百七十圓	金十八圓	
十三册(前金)		五百四十圓	金三十六圓	

(誌代の變更による會費の過不足は半年又は一年毎に精算いたします)

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXIV

October, 1950

No. 3

Hegel's Theory of Art History.....Juzo Ueda

Aristotle's Concept of the Intellect.....Takatsura Ando

Some Problems Concerning the Doctrines of Dignāga..Shoho Takemura

Academic News :

Recent Tendencies of Ethics in Post-War Japan.....Yoshio Shima

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定
價
金
四
十
五
圓